

第42回 うつのみやこども賞だより

令和7(2025)年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『王様のキャリー』

まひる／著 こりゆ／絵（講談社）



令和7年6月 1日

～読んだ本の感想より～

- リオが車いすのことを、かしんだから！と気をつけているのがすごいと思った。勝生（かつき）がリオとかかわって成長しているのが伝わった。
- リオのゲームの上手さに感動した。かつきとリオがゲームをしているときに、Aランクに上がったときにほめたくなった。
- 最初は、かつきはリオに気を使っていたけれど、「キャリー」をしていくうちにぶつかりあいながら友情を深めていくところがよかったです。
- リオは勝生に言葉があらいけど、本当は勝生のことを思っているんだと思った。
- 車いすのリオとかつきがゲームで心が通じて面白かった。
- リオは最初、こわい人なのかと思っていたけれど、最後はやさしそうな感じになっていて、勝生との友情が良くて、私もこんな友達がほしいなと思った。
- lionの口が悪い、と言われた時に、（かつきが）かばうような言い方をしたとこに感どうした。

『復活！まぼろしの小瀬菜だいこん』

野泉 マヤ／文 丹地 陽子／絵（文研出版）

- 小瀬菜だいこんのおかげでさいごに鈴と由衣ちゃんのきずながふかまるところがよかった。
- 鈴と牧人が小瀬菜だいこんを守ろうとしているところがよかったです。ほくも小瀬菜だいこんを食べてみたいです。
- まず、くきと葉だけを食べるダイコンなんてあるんだなと思いました。主人公の鈴も同じことを思っていたけれど、そこから小瀬菜だいこんのことを知り、ふっかつさせていく姿が、とても心にのこりました。
- 私も鈴ちゃんたちのように「伝統野菜」について調べてみたいなと思いました。
- 主人公のすずが、最初はこわいと思っていたおじいさんと、牧人で、小瀬菜だいこんを育て、売るところまでするのはすごいと思った。

『だるまさんがころんで』

林 けんじろう／作 紙谷 俊平／絵（岩崎書店）

- 1位になってほしかったが、モコの負けをみとめるのが人間としていいなと思った。
- だれもが知っている「だるまさんがころんだ」の大会のルールが少し変わっていておもしろいなと思いました。
- とつぜん始まっただるまさんがころんだの大会ですが、本番カン太がタイシの力を使わずにじゅんゆう勝したのがすごいと思ったし、最後タイシがキャラクターの雪丸な事もおどろきました。
- いきおいで「えいっ」とやってしまうカン太が仲間達とあきらめずにちようせんすることで成長できることを改めて感じた！

『しじんのゆうびん屋さん』

齊藤 倫／作 牡丹 靖佳／画（偕成社）

- ガイトーとトノリスの関係がよかったけど、ガイトーがゆう便局をやめると言ったときはとてもドキドキしました。
- 手紙を届けるのではなくて気持ちを届けるっていうのに脳をうたれた。
- 詩を書くガイトーが最後にゆうびん局をさる時にトノリスに詩を書いた時にとってもふくざつな気持ちになりました。
- ガイトーが書いた詩が心にささりました。